

はじめに

「公立校の教員 3827 人不足 文科省『深刻な状況』」。これは今年（令和 8 年）3 月の新聞記事の見出しです。近年、全国的に教員不足が深刻な課題となっています。教員不足は教員の多忙化をさらに加速させ、教育現場のいわゆる「ブラック化」は教員志願者の減少にもつながり、負のスパイラルを生み出しています。学校教育を担う人材の確保は喫緊の課題であり、このような状況の中で、教師という仕事の意義や魅力を改めて見つめ直すことが求められています。

「教育は人なり」と言われるように、学校教育の質は教員の資質や姿勢に大きく左右されます。教師が前向きに教育活動に取り組み、子供と共に学び成長していく姿は、子供たちに安心感や学ぶ意欲をもたらす、学校生活をより充実したものにします。教師が意欲をもって教育活動に取り組む学校は、子供たちにとっても魅力ある学校です。そのためには、教師一人ひとりが専門性の向上に努めるとともに、人間力を高めながら教育者として成長し続けることが求められます。また、授業や教育実践について語り合い、課題を共有しながら学び続ける教師集団の存在は、学校の教育力を高めるうえで大きな役割を果たします。教員同士の同僚性や協働性を基盤とした学びは、教師の成長を支えるとともに、魅力ある学校づくりを推進する重要な要素です。こうしたことを踏まえ、本教育研究所では、教師が意欲的に教育活動に取り組みながら、互いに学び合い成長していくことのできる教師集団の形成を目指し、魅力ある学校づくりにつながる実践的な研修や、幅広い知識や教養に触れる研修に取り組んでまいりました。また、研究事業では、喫緊の教育課題である不登校について、「新たな不登校を生まない学校における視点」を研究主題として研究を進めてまいりました。本研究において示した一定の指標が、少しでも学校現場の取組の一助となれば幸いです。

これからも教育研究所では、研修事業や研究事業を通して教師の学びを支える環境整備に努め、「教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師を目指そうとする者が増加し、教師自身も士気を高め、誇りを持って働くことができている」（令和 3 年答申 第 1 部 総論 教職員の姿）という姿の実現を目指し、皆様から信頼され、頼りにされる教育研究所であるよう研修および研究を進めてまいります。

最後になりましたが、今年度の研究所事業の推進に際し、ご指導・ご協力を賜りました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

令和 3 年答申：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～
(令和 3 年 1 月 26 日)

令和 8 年 3 月

守山市教育研究所長 脇阪 久徳